

第1回 重信川堤防調査委員会

議事要旨

1. 日 時：平成30年2月2日（金）9:30～11:30

2. 場 所：松山河川国道事務所 2階 第1,2会議室

3. 出席委員

：委員長

鈴木 幸一（愛媛大学名誉教授）

委 員

岡村 未対（愛媛大学大学院理工学研究科教授）

佐々木 哲也（国立研究開発法人土木研究所上席研究員）

諏訪 義雄（国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究室長）

4. 議事概要

- ・第1回委員会では、現時点での調査結果から分かったことについて、事務局から説明してもらい、堤防漏水の原因等について議論した。

《共通事項》

- ・今回の洪水と過去洪水との違いについて、降雨や低水路の河床変化を整理するよう事務局にお願いした。

- ・漏水経路が堤体なのか基礎地盤なのか判断できる浸透流解析を実施するよう事務局にお願いした。

《左岸 3k 800》

- ・噴砂はBs-g層から流出したとの説明について、その下層のAs層あるいはAgs層から流出したのかについて、はっきりとしていないことから、その他の可能性も視野に入れて検討するよう事務局にお願いした。

- ・堤体の透水係数について土層全体を代表している値なのか、または、局所的に透水性の高い箇所が発生している可能性（砂礫脈の存在）などを踏まえて、被災箇所前後区間の堤体材料等を整理（各土層の透水性・土層構成・粒度構成）するよう事務局にお願いした。

《右岸 2k 500》

- ・水路背面の埋戻土の影響の可能性があることから、被災前後区間の埋戻土の調査を事務局にお願いした。

《今後の調査方針》

- ・今回発生した堤防漏水箇所について偏りが見られるため、地形・地質等を整理して漏水との関係を整理するとともに、ボーリング調査結果が少ないことから、被害がない箇所でも調査するよう事務局にお願いした。